



# 絵本作家 きむらゆういち先生 ワークショップ&講演会 in 知遊館

絵本作家のきむらゆういち先生をお招きし「ワークショップ&講演会」を開催。造形作家という一面を持つきむら先生が考えた楽しく遊べるおもちゃをつくるワークショップと、アニメ化や歌舞伎の題材にもなった名作「あらしのよるに」シリーズをはじめとした作品制作の裏話などを交えながらの講演を2日間にわたり知遊館で行います。ぜひご来場ください。

▶日時・内容

2 / **25** 午後2時～3時30分 **ワークショップ** ※【対象年齢】5歳～小学4年生  
**26** 午前10時30分～正午 **講演会「作品が生まれるひみつ」** ※どなたでも参加可能

▶参加料・参加申し込み（定員：ワークショップ30人、講演会70人）

参加は無料ですが、事前申込制で先着順としていますので、図書館（分室含む）へ来館・電話・FAXのいずれかで申し込みください（電話番号などはページ下部に記載してあります）。



## 白銀の世界

雪が降る地域に生まれると大変な思いもしますが、降り積もった後の白銀の世界には魅了されます。

### 『雪の結晶 小さな神秘の世界』

ケン・リブレクト、矢野真千子/河出書房新社



ただ真っ白な塊に見える雪をルーペや顕微鏡、カメラを使って美しい結晶として写真に写し取った本作。アメリカの物理学者が、研究のかたわら珍しい雪の結晶を求めて撮影にも工夫を凝らし、結晶の成長、しくみ、形を楽しく解説した「写真図鑑」です。

### 『ゆきのげきじょう』

荒井良二/小学館



とうさんが大切にしていた本をやぶってしまった男の子。おこられるかなと思いつつ、スキーをはいて、ふらふらと一人で雪の中へ。途中でくぼみに落ちたのですが、雪の中に小さな劇場を見つけます。雪の中なのにあたたかなイメージのわく絵本です。

### おはなし会を開催します

— 3会場とも午前10時30分から行います —

- ▶ 加悦分室…2月11日（祝）
- ▶ 野田川分室…2月25日（土）
- ▶ 本館…3月4日（土）

### 蔵書点検のため休館します

蔵書点検のため、以下の日程で臨時休館します。

- ▶ 野田川分室…2月15日（水）、16日（木）
- ▶ 加悦分室…2月21日（火）、22日（水）
- ※ 本館は終了しました

● 問い合わせ先/与謝野町立図書館 ☎ 46-2451・FAX 46-0050 加悦分室 ☎ 43-0376 野田川分室 ☎ 43-0087  
 ● 開館時間/午前10時～午後6時 ● 休館日/毎週月曜（本館・加悦分室）、毎週火曜（野田川分室）、毎月最終木曜（共通）

**皆**さん、こんにちは。今年も寒く厳しい冬がやってきました。日本より暖かく雪が降ることも珍しい南アフリカ出身の私にとって、与謝野町の冬はとても寒く厳しい季節です。通勤時も自動車のフロントガラスがすぐに曇ってしまい、霜取りが正常に作動するまでの間、窓ガラスを開けて曇りを取らなくてはなりません。この間の寒さは言葉にならないほど過酷なものです。

しかし、窓ガラスを開けることによって町の音が聞こえるようにもなります。通学する子どもたちの元気な声や上級生であろう児童が他の児童に対して注意する声、子どもたちを温かく見守る教師や地元ボランティアの声など、聞いていて感銘を受けました。その中で、1つ疑問に思う不思議な音も聞こえてきました。子どもたちが歩くたびに「鈴の音」が聞こえるのです。よく見るとどの子どものカバンに鈴がついているではありませんか。私はその光景をととても不思議に感じて、同僚の先生にその訳を尋ねました。そして、その先生の答えにびっくりしま



南アフリカでビッグ5に会いたいなら「フルーガー国立公園」がおすすめです

した。「町の中でクマが出る!？」南アフリカというと、日本の動物園でもなじみのあるビッグ5（ゾウ・ライオン・サイ・ヒョウ・バッファロー）に代表される野生動物たちの楽園というイメージをお持ちの方が多いのですが、実際にそれらの動物は国立公園内にしかいません。南アフリカの田舎に行っても出会うことができる野生動物といえば、鹿と猫ぐらいです。南アフリカのような自然豊かな国でも出会うことができないのに、町中でクマが出没することなどありえないと思えました。

数日後に与謝野町内を自動車で移動中、ふと前を見るとクマがいるではありませんか。住宅街でなおかつ屋間にクマがいるということは私にとってとても信じられない出来事でした。後日、この出来事を同僚や子どもたちに話しても驚くことなく、それは普通のことだと答えるではありませんか。今後は私もクマに出会うことがないように、鈴を持ち歩こうかと思えます。どうか皆さんもクマにご注意ください。

## 時の贈り物 [第125回 与謝野の氏神祭り① 実は、江戸・明治時代には普通だった担い屋台]

イサー、ヨイヤサ、ホ」となります。実は、この担い屋台は明治時代までは後野や三河内などでも出されていまし。今の後野は芸屋台をメインとする曳

**与**謝野町内の春の氏神祭りでは、多くの地区で屋台巡行が見られます。その種類は「芸屋台」「山屋台」「太鼓屋台（楽台）」の3タイプがあります。このうち、太鼓屋台は「曳き系」と「担ぎ系」の2タイプがあります。多くが曳き系屋台ですが、唯一、与謝の二ツ岩地区だけ担ぎ系の屋台が出されます。掛け声は「ヨイヤサ、ヨイヤサ」です。屋台に乗った太鼓役と笛役のリズムと担ぎ手の歩調を整えるための「間」として、時折、「ホ」や「ハ」を付けます。そのときは「ヨイヤサ、ヨイヤサ、ホ」となります。



今では唯一の担い屋台を出す与謝の二ツ岩地区

き屋台巡行ですが、江戸・明治時代にはその中に担い屋台が混ざっていました。また、今の三河内は曳き系の山屋台と太鼓屋台がメインですが、このスタイルは明治時代以降に導入されたもので、江戸時代には曳き系の屋台はなく、担い屋台がメインでした。つまり、江戸時代から明治時代の屋台巡行には、担い屋台が普通にあつたのです。与謝の二ツ岩地区の担い屋台の巡行は、かつての姿を伝える唯一の存在と言えるものです。

（与謝野町教育委員会）